国土交通省　清水港湾事務所　広報紙

みなとしみず

SINCE 1990.6　No.146

～清水港をはじめ静岡県内の「みなと」の旬な情報をお届けします！～

発行
国土交通省 中部地方整備局
清水港湾事務所
静岡市清水区日の出町7番2号
TEL　054-352-4146 (代表)
事務所HP　http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp

本年、清水港湾事務所は開設から100年を迎えました。
これまでお支え頂いた地域の皆様に心より感謝するとともに、次の100年に向け、引き続き皆様と手を携えて、静岡のみなとづくりを着実に進めて参ります。

祝！ 御前崎港開港50周年

駿河湾の入口に位置する御前崎港は、昭和46年（1971年）4月に、関税法に基づく国際貿易港として開港の指定を受けて、本年で50年の節目を迎えました。

1970年代に中央ふ頭、1980年代に西ふ頭が整備され、平成16年（2004年）には当事務所が整備した水深14m岸壁（国際物流ターミナル）が供用するなど、着実に機能強化が進められてきました。

現在は、主にコンテナ、完成自動車、RORO貨物などを取り扱っており、静岡県西部地域の産業・経済活動を支える物流拠点として、また、地域の賑わい拠点として重要な役割を果たしています。

御前崎港開港式
（昭和46年8月7日）

本年は、開港50周年を記念して、記念式典や各種船舶の寄港・一般公開などの記念行事を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、残念ながら記念式典をはじめとする各行事は中止となりました。

一方で、開港50周年を契機として、50年後の御前崎港を見据え、地元関係者や、当事務所、静岡県の参画のもと、「御前崎港の将来を考える勉強会」が設置されました。７月21日に第1回勉強会が開催され、海洋環境の保全やブルーカーボン（海洋生態系により吸収・貯留される炭素）の活用をテーマに、活発な意見交換が交わされました。今後は、官民の関係者が連携して、アマモ場の保全や育成に取り組む計画です。

当事務所も、関係者の皆様と協力し、引き続き御前崎港の発展に向けて取り組んでいきます。

現在の御前崎港（令和3年2月）

御前崎港久々生海岸におけるアマモ場の調査
（令和3年8月　ドローンによる調査）

浜名港において「みなとオアシス浜名湖」が登録されました！

令和3年7月10日に、国土交通省により、「みなとオアシス浜名湖」が新たに認定・登録されました。

国土交通省では、港を核として地域住民の交流や観光の振興に取り組むエリアを「みなとオアシス」として登録し、賑わいづくりを支援しています。
（令和3年7月31日時点で、全国151箇所が登録）

「みなとオアシス浜名湖」は、「海の湖」浜名湖の豊かな自然環境と水産資源を活かして、一年中楽しむことのできるオアシスを目指しています。

中心施設の海湖館（かいこかん）では、さかなつかみ体験や、貝殻と流木を使ったクラフト体験、バーベキュー、レンタサイクル、釣り、海水浴など多くのアクティビティが楽しめます。

また、周辺地域では、海・湖・船の魅力を発信する「浜名湖ミナトリング」や、スポーツフィッシング大会などの地域イベントが毎年開催され、賑わいを見せています。

かいこかん
海湖館

新居弁天海釣公園

新居弁天海水浴場

浜名湖ミナトリング

「みなとオアシス浜名湖」を拠点とした防災訓練を実施しました

10月13日に、みなとオアシス浜名湖を拠点に、津波災害を想定した緊急物資輸送及び被災者支援訓練を実施しました。

当日は、静岡県、湖西市、浜松市、御前崎市など関係機関のご協力のもと、当事務所の港湾業務艇「ふじ」を活用して、御前崎港や浜名湖内陸部から浜名港岸壁に緊急物資を輸送するとともに、海湖館に取り残された被災者を舞阪漁港に移送する訓練を行いました。

清水港湾事務所では、こうした防災訓練などを通じて、関係機関と連携し、「みなとオアシス」をはじめとする港湾・漁港を拠点とした海路による広域防災ネットワークの構築を進めていきます。

浜名港岸壁における緊急物資の積み下ろし

海湖館からの被災者の移送

熱海市における土砂災害への対応（熱海港伊豆山地区の復旧支援）

令和3年7月3日、熱海市伊豆山（いずさん）において、大雨による土石流が発生しました。
亡くなられた方々に謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、 被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

伊豆山の逢初川（あいぞめがわ）で発生した土石流は、下流の熱海港伊豆山地区まで到達し、船溜まりに土砂が堆積するとともに、沖合にも土砂が流れ込みました。

清水港湾事務所では、中部地方整備局TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）として、職員２名を現地に派遣し、発災翌日の7月4日早朝より、ドローン等を活用し、熱海港伊豆山地区の被災状況調査を実施しました。【写真①】

ドローンによる調査では、港内に流入した浮遊物や、沖合の濁りの範囲など、広範囲を迅速かつ鮮明に確認することができました。【写真②】

8月20日には、伊豆山地区沖合の土砂堆積状況を調査するため、静岡県測量設計業協会と連携し、協会会員であり当該海域の状況に知見を有する(株)ウインディーネットワーク（下田市）の協力を得て、清水港湾事務所の港湾業務艇「しもだ」に搭載したナローマルチビームソナーによる海底測量を実施しました。

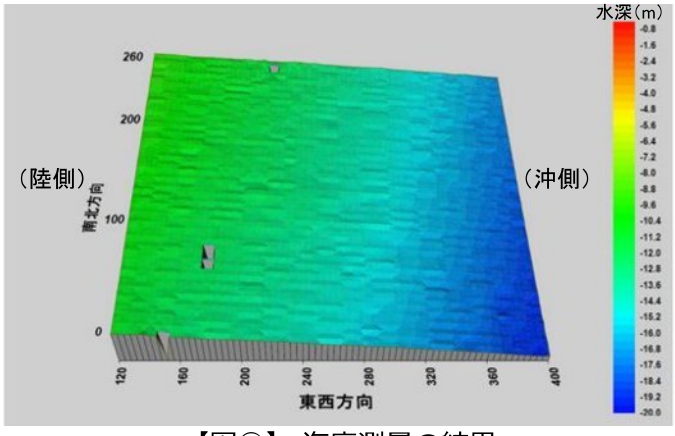
測量データを解析した結果、被災前の水深データと大きな相違は見られなかったことから、土砂の堆積はほとんどないことが確認されました。【図①】

これらの調査結果は、静岡県と速やかに共有し、8月末より静岡県により港内の復旧工事（水中土砂の撤去作業等）が開始され、９月末には工事が完了しております。

清水港湾事務所では、災害時に迅速な対応ができるよう、引き続き、関係機関との連携体制の確保や、今回使用したような測量機器・ドローン等の習熟訓練に努めていきます。

【写真①】 大量の土砂が流入・堆積した船揚場

【写真②】 伊豆山地区沖合の濁りの様子



【図①】 海底測量の結果

港湾業務艇「しもだ」による海底測量の状況

家族で楽しく学べる清水港見学会を開催しました

7月27日に、興津生涯学習交流館が主催する夏休み講座と協働で、清水港見学会を開催しました。

参加した親子20組51名は、コンテナターミナルや砂浜の再生事業の説明を受けた後、船に乗り込み港内を見学しました。

当日は、コンテナ船、穀物運搬船、LNGタンカー、RORO船、探査船、フェリー、作業船等の多くの船が清水港に入港しており、様々な貨物の取扱状況や海上工事の様子を見ることができました。

参加者からは、「普段は見られないコンテナターミナルや海から見た清水港の様子を見学できて良かった」「いろいろな場所を船で見学できて嬉しかった」といった感想をいただきました。

船上からコンテナターミナルを見学

海上工事の様子を見学

「清水港湾事務所 100年のあゆみ」パネル展を開催しました

７月21日から8月31日まで、静岡市清水区の東部勤労者福祉センター（清水テルサ）をはじめ、県内各所で「清水港湾事務所100年のあゆみ」パネル展を開催しました。

ご覧になった皆様からは、「清水港湾事務所の取り組みがわかりやすかった」「県内の港の歴史がよくわかった」「大正時代の清水港の写真などは大変貴重な資料」などの感想をいただきました。

清水港湾事務所庁舎では、今年12月末までパネルを展示予定ですので、お近くにお越しの際は、ぜひ足をお運びいただければ幸いです。

御前崎市役所

清水港湾事務所

清水テルサ

牧之原市役所

みなとの企業訪問
（下田港　株式会社ウインディーネットワーク）

令和3年9月17日に、下田市に本社を置く、株式会社ウインディーネットワーク様の海洋調査技術研究所（南伊豆町）を見学させていただきました。

ウインディーネットワークは、陸上及び海洋の調査・計測・解析などを専門とし、その高度な技術は、水産振興、インフラ整備、防災対策、環境保全、学術研究など多くの分野に活用されています。

また、日本や世界各地で沈没船をはじめとする海底探索活動を行っており、静岡県内でも、平成27年に下田港沖の海底で旧海軍の潜水艇「海龍」を発見、さらに本年7月にも同じ下田港沖で、2隻目の「海龍」を発見しました。

こうした高度な調査は、社員の皆様が持つ高い技術力・知見に加え、最新技術を搭載した高性能な調査機器に支えられています。ウインディーネットワーク海洋調査技術研究所には、精密な三次元海底地形計測や海底地層探査、深海底のハイビジョン撮影などを行うための様々な調査機器が集まっています。

7月に水中ドローンで撮影に成功した
潜水艇「海龍」

7月に発生した熱海市の土砂災害でも、いち早く現地に入り、被災後の三次元立体地図や伊豆山沖の土砂堆積状況を静岡県に提供しました。

また、3ページでご紹介した当事務所による熱海港伊豆山地区の測量調査においても、技術協力をいただきました。

このような災害支援や地域貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

海底の音響探査により作成した
伊豆山沖の土砂堆積状況を示す画像

高度な海洋調査を支える調査機器（ウインディーネットワーク海洋調査技術研究所）

杉本憲一代表取締役社長は、「伊豆を拠点に、日本トップレベルの調査技術の提供を目指して挑戦を続けたい。企業活動を通じて、下田や伊豆地域の振興にも貢献していく」と話します。

伊豆から、日本・世界各地のフィールドへ、さらなる飛躍が期待されます。

最後になりますが、取材にご協力いただいた株式会社ウインディーネットワークの皆様に心より御礼申し上げます。

清水港湾事務所開設100周年事業のご紹介

清水港湾事務所は、1921年（大正10年）に、内務省横浜土木出張所清水港修築事務所として開設され、本年、100周年を迎えました。

この節目にあたり、清水港の整備をはじめ、これまで当事務所が手がけてきた主要プロジェクトや、現在実施中のプロジェクトの概要を動画及びパンフレットにまとめ、清水港湾事務所ウェブサイト（下記参照）で公開しました。

各プロジェクトの時代背景や施工技術も含め、清水港湾事務所100年のあゆみを、ぜひご覧いただければ幸いです。

【清水港湾事務所 100年周年特設ページ】

http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp/pickup-100th/

YouTube動画

パンフレット

また、9月30日に清水港湾事務所ウェブサイトをリニューアルし、スマートフォンからも見やすくなりました。
100周年動画・パンフレットとあわせてご覧下さい。

清水港湾事務所では、学校、企業、自治会等の皆様を対象に、みなと（清水港、御前崎港、田子の浦港、下田港など）の見学会や、出前教室を実施しています。
詳細は、清水港湾事務所 企画調整課（TEL 054-352-4148）にお問い合わせ下さい。
メール（pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp）でも受け付けております。

海とみなとの相談窓口

全国共通フリーダイヤル
全国共通フリーダイヤル

おーいに　よくなれみなと

0120-497-370

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）
携帯電話からもご利用いただけます

・海やみなとの利用に関すること
・総合的な学習時間に関すること
・みなとの構想や計画に関すること
・海洋土木技術に関すること
・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課
TEL　054－352－4148

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。
pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp